

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年5年目を迎え、もう1度原点に返り「こんな事はやめて」「こんな暮らしがしたい」という事で全職員に意見を出してもらい、理念を作成している。	
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい理念作成に際し、全職員が携わり理念の共有に取り組んでいる。スタッフ各自が理念に沿った支援をしているのか自己評価をしている。	
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会・運営推進会議で、地域の中で暮らす大切さを伝えている、又、家族や来苑者が見やすいように、玄関に理念を掲示している。	
2. 地域との支えあい			
4	○ 隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	公共施設で行われる催し等への参加をしたり、地域で実施している花壇の手入れへ参加している。又、ボランティアや職業体験の受け入れをし、その際は守秘義務の説明を行っている。苑で行う夏祭りへの参加呼び掛けをしたり、地元の桜祭りへの参加もしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5 ○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員の意見を反映させ行っている。		
6 ○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の活動報告や外部評価結果の報告をし意見交換を行っている。又、福祉関係について資料を提供してもらうなど学習会の場にもなっている。		
7 ○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、現場の実情等を伝える様にし、支援を得ている。		
8 ○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	社協からパンフレットをもらい全職員に配布しその後、県社協による研修にも職員を参加させている。		
9 ○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、資料閲覧している。又、日常のケアに於いても職員間で虐待しないと言うことを話し合っている。新しい理念にも取り込み、虐待の防止に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際十分な説明を行っており、個人個人の状態に応じてリスクを説明し、同意を得ている。看取りの部分での苑で出来ること出来ないこと等の説明をし家族に同意を得ている。	
11	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動又はして欲しいこと等は、職員が把握できるよう、管理日誌または連絡簿に書き込み、全職員が目を通す様にしている。	
12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1か月の出来事、苑での状況、身体状況等を毎月家族通信として送付している。小遣い帳のコピー及び領収書も同様に送付している。	
13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け色々意見を出してもらったり、面会時に苦情等があれば聞くようにしている。	
14	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議の開催や、連絡簿を使い職員の意見や提案を聞くようにしている。経営者、管理者と職員の面談の場を設け意見、要望を聞いている。	
15	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の増により緊急時の勤務調整は出来るようになった。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護職員は全員常勤である。ユニット別に職員が固定している。		
5. 人材の育成と支援				
17	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修計画を作成し、全職員が研修受講出来るようにしている。介護上必要な資料は全職員に閲覧、又、段階に応じて必要な研修が受けられるように配慮している。		
18	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接のグループホームの職員が来苑し、意見交換はしたが、まだ訪問はしていないので、訪問しサービスの見直し等に繋がりたいと思っている。		
19	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	特別な苦情がない限り職員が落ち着いて休める休憩室を設け休憩させている。職員が何でも話せる様な環境づくりを心掛けている。		
20	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年1回健康診断を実施している。運営者は職員の意見を聞くようにしたり、職能評価を行ったりして、向上心が持てるような配慮をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○ 初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望があった場合は、希望者宅に出向き面談を行い要望を聞いている。又、苑の対応等について事前に話し合いをしている。	
22	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、入居前の調査時に聞き取りをし支援に繋げている。	
23	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の家族が来苑した時は、入居前の度々の来苑を勧め、急な環境変化とならないよう支援している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が利用者と喜怒哀楽を共にし、時には孫役、母さん役の職員がいたり賑やかに日々を送っている。職員が利用者に料理や畑作業を教わったりと、利用者の得意分野で力を発揮してもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者がパニック状態になった時は、電話での対応をお願いし、家族にも役者になってもらっている。		
26	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が参加できる行事を計画したり、見てもらいたい場面や行動を写真や文章にし、毎月家族便りとして送付している。利用者に変化が見えた時は、家族と連絡を取り意向を聞いて対応している。		
27	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がパニック状態になった時は、電話での対応をお願いし、家族にも役者になってもらっている。行きたい所へ行ける様、安全面に気を配り見守り支援している。		
28	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	様々な、活動を通し孤立しないよう支援している。食事、お茶等の呼び掛けを利用者に頼んだりしている。		
29	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、亡くなった利用者があり、その家族の元へ出掛け慶弔見舞をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者と話をしたり、面会者から話を聞くなどして思いや意向を把握するようにしている。	
31	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に自宅に訪問し、ご本人や家族に聞き取りをしている。生活歴としてケース帳に綴り、職員にも把握してもらっている。利用者との会話を通して、又、面会者が来苑した際にも少しずつではあるが、把握に努めている。	
32	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活のリズムを職員全員が把握している。一人ひとりの出来ることを家族の情報からだけでなく、ご本人の日常生活の中で判断し、無理強いする事無く援助している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケア会議を行い職員全員で意見交換をして介護計画を作成している。介護計画送付時、家族に意見を求めている。	
34	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化が生じた場合には、ケア会議を行い職員全員の意見を聞き、見直しをしている。又、見直しの際には前回の評価も行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し日々の出来事、身体的状況等を記録し、介護計画の見直しに活かしている。職員の気づいたこと、又は状態に変化が生じたときは、全職員が周知出来るようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の介助や外出支援など利用者や家族の要望に応じた支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町の事業である「陽だまりの会」を月1回、苑でという事で来苑してもらっている。他、「ふれあいサロン」も数回苑で行っている。避難訓練やボランティアの受け入れ等、様々な機関と協力し支援をしている。		
38	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運営推進会議で社協が行っている福祉サービス、苑の利用者が使えるサービスについて情報提供してもらい支援できるような体制作りをしている。		
39	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターで行っている機能訓練「陽だまりの会」を月1回苑で行ってもらっている他、推進会議においても情報提供してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は利用者や家族の要望により対応している。また、通院が困難な利用者は、巡回診療や訪問看護が受けられる様支援している。		
41	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症等の専門医はいないが、地域の病院に相談し助言、指示をもらっている。		
42	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の資格を持った者に、利用者の身体上心配な事があれば、相談し指示を受けている。		
43	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は医療機関に情報提供をし、利用者の入院によるダメージを最小限にする為、頻繁に職員が見舞うようにしている。その際、家族との連絡も密にし、入院目的を達成して退院になる様支援している。	○	入院時、不穏状態になり入院目的を達成出来ないままの退院になることもある為、もっと連携を密にして支援して行きたいと思う。
44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の方針を家族に説明し、家族の支援協力をお願いしてある。また、終末期の医療については文書で家族の方針を確認している。		
45	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を大切に、医療関係との連携を取り、安心して終末を迎える事が出来るような支援を心掛けている。	○	利用者が安心して終末期を迎える事が出来るよう、職員の力量の向上を目指して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居にあたっては、家族などから利用者の情報を出来る限り提供してもらい、その情報を職員間で共有し支援に繋げている。入院時は、ダメージが最小限になるよう入院先へ情報提供している。又、職員も出来るだけ病室を訪れ、本人がパニックにならない様支援している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	整容の乱れ等があった場合は、さりげなく居室に誘い支援している。個人情報等は部外者の閲覧できない場所に置いたり、プライバシーの保護については、全職員に周知させている他、ボランティア、出入りの業者にも守秘義務を徹底させている。(守秘義務の契約書の記入)		
48	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来る事、やりたい事はなるべく利用者の思いが叶う様支援している。利用者の力量にあった支援をしている。		
49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等、一人ひとりの状態に合わせて出来るだけ利用者の思い通りにし、個別性のある支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	カット等は、職員に美容師の資格を持った者がおり対応している。毛染め、パーマ等については、本人の望むところに行ける様支援している。朝の着替えは本人の意向で決めているが、自己決定しにくい方には、声掛け支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き一緒に作り、利用者と職員と一緒に食卓を囲み同じ物を食べている。片付けは、それぞれの力量に合った役割分担が利用者同士で決まっており、賑やかにやっている。		咀嚼が困難な利用者には、調理法を変えての支援をしている。
52	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	外出時、買い物をしたい利用者に同行し、好きなものが買えるよう見守り支援している。賞味期限内に食べられる様声掛けしている。		
53	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗がある利用者には、その力量に応じて時間を決めての声掛け支援を行ったり、トイレに同行し一部介助したり等の支援を行っている。		
54	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応、入浴日は決まっているが、入浴したいという方にはいつでも対応する。利用者の状況に応じてシャワー浴等実施している。		
55	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れないと起きて来た時は、砂糖湯等を勧め安眠できるよう支援している。その日の出来事や、体調に応じて休息を取り入れる等の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ゲームや体操、カラオケ等で気分転換の支援をしている。それぞれの得意分野で役割分担が決まっており、自然に自分の持ち場に就いている。その日の利用者の気分でドライブに行ったり、イベント等に出掛けたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理の出来る方にはお金を持って頂き、見守り、声掛けしている。自分で管理出来ない方でもその能力によって、外出時預かり金から手渡すなど工夫している。		
58	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のゴミ捨ての車に便乗して行くことを、とても楽しみにしており、希望者の多い場合は順番に支援している。散歩、買い物、ドライブと外出支援している。		
59	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠距離への花見、小旅行等を家族の協力のもとに支援している。温泉に行きたい等の希望がある時は職員の勤務調整を取りながら支援している。		
60	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話出来る様、又、他利用者に聞かれない場合は居室で話せるように支援をしている。		
61	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の都合のいい時間帯に、いつでも訪ねて来れる様、又宿泊したい方には布団を貸す等の支援をし、又、その旨を家族に伝えている。	○	馴染みの人の訪問が増えるように働きかけをしている。(ボランティア、家族等に)
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束によって利用者が精神的にどうなるかを周知している。身体拘束をしなければならない理由が発生した場合の同意書を作成し、家族会で説明している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に、音の出る物を下げる等工夫し、利用者の出入りを確認できるようにしている。外出しそうな時は、さりげなく声掛けを行ったり、気付かれない様に後ろからついて行ったり等、見守り支援している。		
64	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は一時間ごとの安否確認を行っている。事務作業のスペースも利用者の状況が把握出来る様工夫している。		
65	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品等は、扉を付け目隠しする等の工夫をしている。利用者の使用する物品等も、危険な物に関しては一人ひとりの状態に応じて職員が預かったり等の支援をしている。		
66	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録し、全職員の確認印をもらい共有認識を図っている。物品の配置なども危険の無いよう気配りしている。	○	利用者一人ひとりの行動を把握し、全職員が共有し事故防止に繋げていく。
67	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応のマニュアルを作成し、見えるところに貼ったり、心肺蘇生法の講習会に職員を参加させるなどしているが、まだ全ての職員が対応出来る状態ではない。	○	救急手当や蘇生法等の研修会に職員を参加させ、全職員が対応出来るようにしたい。
68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけをしている	マニュアルを作成し、年3回利用者と全職員で避難訓練を行っている。その際、消防署の協力を得て消火器を使つての消火訓練等も実施している。	○	地域の体制作りの為に、運営推進会議の場で取り上げたりして、町内会への働きかけを検討中である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い - 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	自由な、外出抑制のない行動を利用者にしてもらう事によって、起こりうるリスクについては家族に説明し納得してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 - 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られた時は、バイタルチェックを行い変化時の記録をつけたり、その状況で緊急受診させたりしている。又、その際は管理者に報告すると共に、職員間で管理日誌、連絡簿等で共有し対応している。		
71	○服薬支援 - 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、お薬写真を利用者一人ひとりのファイルに納めている。又、処方が変わった時は口頭、連絡簿等で職員が分かるようにしている。服薬時は本人に手渡し服薬の確認をしている。服薬による症状の変化があった時は、主治医に相談している。		
72	○便秘の予防と対応 - 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材やおやつに、なるべく一日一回は乳製品を取り入れる等工夫したり、運動を促したり自然排便出来る様取り組んでいる。下剤等を使用している利用者は、個々の状態に合わせて、使用量や頻度の工夫をしている。		
73	○口腔内の清潔保持 - 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の義歯の手入れの声掛け等を行い、自分で出来ない利用者には、一部介助で支援している。就寝前は義歯の手入れ及び、洗浄剤に浸け置きするよう支援している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 - 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。毎日の献立内容を記録し、お茶などを利用者の目の届く所に置き、いつでも飲めるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行い、全職員に周知させ、早期発見、早期対応に努めている。家族の同意の下に、利用者ごと全職員にインフルエンザの予防接種を受けてもらっている。ペーパータオルを使用する等の予防対策を行っている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾等は、毎日殺菌している。食材の点検も毎日行い管理している。調理器具、台所の水回りの清潔・衛生を保つよう、職員で取り決め実行している。又、食材も賞味期限の短いものは買いだめせず、その都度買うよう心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	木や花を植え、季節感を演出している。明るい雰囲気になるよう、玄関に花を生けている。玄関には日中、鍵をかけず自由に出入りが出来るようにしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面に、季節が分かるような飾り付けをしている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関に椅子を置き、いつでも利用者が交流出来る様にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や小物等の持ち込みを、本人や家族に勧め、入居時に持って来てもらい、居室に置いている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	その日の状況に合った温度設定にする様、職員が配慮し換気にも気を配っている。湿度にも気をつけ加湿器を置くなど、利用者の体調管理に繋げている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等を設置している。浴室の洗い場は滑らない様、また転んでも衝撃の少ないコルクを使用している。居室、共有スペースのほとんどがバリアフリーになっている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の扉が全室同じなため、ご自分の居室が分かるよう表札をつけている。場所の間違いを防ぐ為、目印をつけたり張り紙などを行っている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、苑の裏に畑を作ったり、利用者が楽しんで生活出来る様にしている。苑の周りに椅子などを置き、涼んだり、日向ぼっこが出来様にしている。又、車いす対応にスロープスペースを設けている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	☐ 大いに増えている ☐ 少しずつ増えている ☐ あまり増えていない ☐ 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	☐ ほぼ全ての職員が ☐ 職員の2/3くらいが ☐ 職員の1/3くらいが ☐ ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ほぼ全ての利用者が ☐ 利用者の2/3くらいが ☐ 利用者の1/3くらいが ☐ ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ほぼ全ての家族等が ☐ 家族等の2/3くらいが ☐ 家族等の1/3くらいが ☐ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・桜祭り、夏祭り、紅葉狩りなど、季節を感じる事が出来る様に、年間行事の計画を立てており利用者が楽しめる様支援している。
- ・利用者の気分転換を図るために外出支援に力を入れている。